

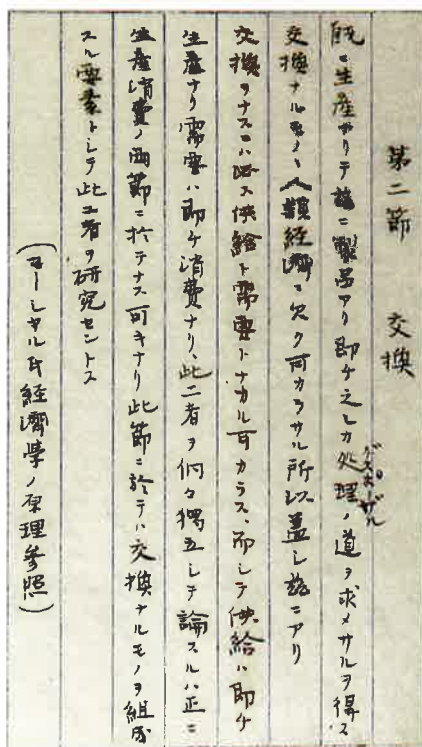
梅檀は双葉より芳し

修学旅行に選抜された学生の大半は卒業後実業界へ進んだが、9名は母校で教鞭を執る道を選んだ。その顔ぶれは、下記の表の通りである。彼ら9名は抜群の成績を収めて修学旅行生に選ばれ、その経験を糧として各学問分野を代表する学者へと成長していった。

作成者	資料名	調査年	備考
福田徳三	修学旅行報告	明治26	坂田重次郎と共著
佐野善作	山梨県一円長野県諏訪伊那視察報告書	明治27	小林和介と共著
堀光亀	明治三十一年台湾修学旅行報告	明治31	『高等商業学校同窓会誌』第6号に掲載。原本は現存せず
三浦新七	本邦之銀行業	明治31	
三浦新七	両毛地方機織業調査報告書	明治33	河本保三・安藤兼三郎と共著。専攻部時代の調査
藤本幸太郎	瀬戸萬古常滑陶磁器調査報告書	明治35	
緒方清	肥後旧藩時代ニ於ケル米穀取引ニ関スル調査	大正5	
緒方清	山形及熊本ニ於ケル米券倉庫調査報告	大正5	
井藤半彌	阪神海運事情調査報告書	大正6	
村松恒一郎	我近海市場ニ於ケル運賃ノ変動	大正7	
杉村廣蔵	新海産物取引事情研究報告	大正7	現存せず

※調査年が報告書に明示されていない場合は、卒業年から推測した。

表2 母校の教員となった修学旅行生



福田徳三・坂田重次郎『修学旅行報告』
 福田徳三(写真上、1874~1930)は明治後期から昭和初期にかけて活躍した経済学者。大正デモクラシー期の活動でも知られる。2巻からなる報告書のうち、福田は第1巻を担当した。報告書には「資本」「供給」「需要」といった経済学の用語やスミス・マーシャルら経済学者への言及が見られ、福田が学生時代から経済学に目を向けていたことがうかがえる。